

鹿児島県大隅半島の農業生産法人

それぞれの「夏あおい」ダイコンの使い方

(編集部)



↑西青木社長に抜いていただいた「夏あおい」はそろいや太りがよく、肌つやも抜群で思わず感嘆の声が上がった。

←立葉の「夏あおい」。葉も健全。

今回は大隅半島の東串良町と大崎町にある3カ所の生産法人を訪問し、「夏あおい」を導入しての評価や使い方などをお伺いしました。

8〜9月まきの主力として！
「腹8分目」がいい

株式会社オオスミ物産

東串良町にある株式会社オオスミ物産の西青木拓郎社長に「夏あおい」についてお話しいただきました。60haのダイコン栽培で「夏あおい」は4〜5haの作付けです。8〜9月播種では「夏あおい」を含め主に3品種を使用されており、ほかの2品種と比べ「夏あおい」の肌つやがきれいだとか絶賛。葉が茂りすぎないこともよい点だとか。また、ゴボウの後作でチツソが多めの土壌で栽培しても長くなりすぎないそうです。「長すぎない、早すぎない、腹八分の品種で作りやすい。青首も薄くて加工



地域概況

九州東南端の大隅半島は西南暖地に属し、概して温暖多雨（年平均気温17℃前後、年降水量2,952mm）で、日照にも恵まれた地域です。曾於地区はシラス地帯を主体に黒ボク、赤ホヤ地帯が多く、肝属地区は鹿児島湾沿岸のシラス地帯、内陸部の黒ボク地帯、南部の花岡岩の堆積地帯に区分されています。特に、曾於地区は県有数の畑地帯であり、畜産と併せて食料供給基地として重要な農業地帯です。

時の歩どまりがいいですね」と評価をいただきました。

「長い期間まけるのもいいですね。9月25日以降にまくと、天候次第で短くなるような気がします。ベストは8月下旬から9月20日までだと思います」

自分の目で見て回れる範囲で栽培したいという西青木社長。「質の向上」を目指し、土づくりに努め、ていねいなマルチ栽培で、最盛期には1日3000ヶースの出荷を捌かれています。圃場で抜いていただいた「夏あおい」はどれも抜群の太りとそろいで肌つやがよ



↑ダイコンのそろいがよいと調製作業もリズムカルに進んでいく。



↑集荷場では西青木社長のお子さんが元気に走り回り、フィリピンからの研修生が陽気な掛け声をかけながらアットホームな雰囲気で作業が進められていた。

いと西青木社長の笑みもこぼれます。「赤芯や黒芯の発生も見ただけが立葉で葉が広がらないので抽根部が風で揺れにくく曲がることがない」と「夏あおい」に信頼を寄せていただきました。

メイン品種に採用!

有限会社片平農産

続いて紹介するのは大崎町にある有限会社片平農産です。ダイコン40haのほか契約の加工キヤベツを20ha栽培。お話を伺った梶田大幹専務は2018年に4月どりのキヤベツ「夢舞妓」で取材させていただきました。片平農産では「夏あおい」を2haの栽培で、9月23日まで播種され、11月1日から収穫が始まっています。梶田専務は「夏あおい」について「抜群にいいダイコン。播種後、台風14号到来時(2022年9月18日)には防風ネットを張ったの



↑葉との際も割れなどなくきれいに仕上がっている。



↑片平正春会長のお孫さんで後継者の片平晃さん(右)と梶田大幹専務。

で、比較的影響は少なく済みました。葉は小葉で黒斑細菌病や軟腐病も出ていません」とスムーズな生育をあげていただきました。「生育はじっくりしており、ス入りもなく在圃性のいい品種かなと思います」

片平農産が重視しているのは「品質」。8月下旬の播種ははじめから白黒マルチ、9月末からは黒マルチ、10月からは透明マルチと周年マルチを使用されています。片平農産が重視しているのは「品質」。リスク分散のため3品種を使い分ける中、「夏あおい」はメインの品種になっています。

→
在圃期間が長くスが入っていない「夏あおい」。





↑規模の大きさだけでなく先進的な取り組みで地域を代表する大崎農園。



↑箱詰めされたそろいのよい「夏あおい」。



↑太りも十分な「夏あおい」。



↑圃場1反ごとに緻密なデータ集積で収穫時期を予測。



↑切り干し大根の加工現場にて生産統括部長の小迫剛氏。

有限会社大崎農園（山下義仁社長、社員55名）は地域を代表する大規模な生産法人です。お話を伺ったのは生産統括部長の小迫剛氏。ダイコンの栽培面積125ha、11月から6月までの収穫で8000tの取り扱いをされています。GAP取得や機械化は当たり前。加工・予冷施設は一人のものとは思えない規模に驚かされます。8月23日〜9月25日まきは15haで「夏の翼」が主力です。肌つや、照りといった品質の高さに利点がありますが、曲がり

じっくりとした生育を生かし、リスク分散として！
 有限会社大崎農園

「夏の翼」よりも生育がじっくりしているため使い勝手がよいとのこと。今年は一リスク分散のため、9月8日まで「夏あおい」を1ha播種。台風14号の襲来で大きな被害が出たものの幼苗は、防風ネットのお蔭で影響は少なく期待通りの品質になったそうです。
 大崎農園さんが最も大事にするのも「品質」。資材費高騰で、8〜9月播種の栽培でマルチを使用しない生産者が増える中、マルチを惜しみなく使用します。また、ほかの地域と提携することで、端境期をなくした高品質ダイコン出荷にも努めておられます。



↑予冷庫に収められたダイコンの数も半端ではない。